

中野冷機株式会社

2018年12月期 決算説明会 質疑応答要旨

開催日時：2019年2月15日(金) 13:00～14:00

Q1：2019年のショーケースだけの売上げ見通しは？

A1：新店についてはかなり先まで見通すことができますが、改装についてはスーパーマーケットの業績に左右されやすく見通しが立てにくいのが現状です。また、スーパーマーケットでは、実店舗への投資よりもデジタルへの投資が予想されるため、ショーケースについては、3%程度落ち込むと予想しています。

Q2：2019年の業態別の見通しは？

A2：昨年は、スーパーマーケットではフロア問題での設備の入替え需要がありましたが、一巡したこともあり、スーパーマーケットの伸びはあまり良くないと予想しています。

Q3：メンテナンス事業での戦略はどういうものか？

A3：今までは、当社製品のみをメンテナンスしており、お客様からは「他社が納入した冷凍冷蔵設備機器のメンテナンスもできないか」との要望がありましたがお断りしてきた経緯があります。

現在は、他社が納入した冷凍冷蔵設備機器のメンテナンスもできる人員体制が整ってきましたので、他社製品のメンテナンスを手始めに、空調機器や厨房機器、給排水設備のメンテナンスまで広げていく計画です。

Q4：価格競争が厳しくなるなかで、売上げを上げていくにはシェアを上げていくことになると思うが、価格対応はどのように考えているのか？

A4：設備投資をするお客様は限られていますので、そこでの競争は厳しくなりますが、ある程度シェアを確保しないとその後の改装需要に結びつかないと考えています。

Q5：5ヶ年計画の最終年度でメンテナンス事業が一気に19億円の売上げ増加となっているがその理由は？

A5：今までは当社が納入させていただいた製品のみをメンテナンス対象としてきましたが、今後は他社製品や空調器などの設備機器もメンテナンス対象として拡大していく計画です。一例として、店舗の清掃ロボットなどがあります。スーパーマーケットでは、夜間人の手で店内の清掃をしていますが、人手の作業から機械が行う作業へと変わっていくと予想しています。そうなりますと、その機械をメンテナンスするなど、新たな事業領域が増えていくと考えています。